

公立大学法人前橋工科大学
学生情報基幹システム構築業務仕様書

令和6年9月

1 業務名

公立大学法人前橋工科大学学生情報基幹システム構築業務

2 調達の背景及び目的

現行の学生情報基幹システムについては、多様化する大学への社会的要請に応えるため、戦略的な情報を分析・活用するほか、学生その他利害関係者へのサービス向上のために令和元年に基幹システムとポータルシステムのパッケージを導入した。現行システムの導入は時代の変化に対応し学生の入学前から在学中及び卒業後に至るまでの様々な情報をシームレスに統合し、事務負担を増加させることなく社会的要求に応えることを可能にしている。今般の基幹システム構築業務については、現行の基幹システムのサポート終了に伴い、稼働中のポータルシステムに適合する後継システムの構築を行うことで、効率的かつ拡張性のある事務環境の継続的な維持を目的とする。

また、データ管理については引き続きインターネットデータセンターでの運用管理を行うことによりデータ消失リスクに対応することで今後想定される大規模災害等に対しての強靱性を確立するもの。

3 システム構築の基本方針

- (1) 令和8年3月までに確実にシステムを稼働させる。
- (2) システム開発から保守まで含めたトータルコストを可能な限り縮減させる。
- (3) 導入後の業務改革を見込み、拡張性・柔軟性を有するシステムとする。
- (4) 導入時及び運用時の職員負担を軽減するシステムとする。
- (5) 職員の操作性及び利便性を高められるシステムとする。
- (6) システム障害が発生した場合の業務への影響を最小限に抑えられるシステムとする。
- (7) セキュリティの確保や個人情報の保護に十分配慮したシステムとする。
- (8) マスターの一元管理及び各システム間のデータ連携を行うことにより、データ登録の軽減を図り、正確かつ効率的な事務処理を行うものとする。
- (9) ソフトウェアのバージョンについては、サービスパックやセキュリティパッチ等を含め、開発後6年程度の運用に支障のないものとする。
- (10) 自然災害又は火災等によるデータ消失のリスクに備えたシステムとする。

4 システムの概要

- (1) 大学として必要な、学生募集、入試、教務（学籍管理、履修登録及び成績管理）、就職、卒業生管理、証明書発行、保健室（健康診断）、奨学金及び学費について管

理及び処理を可能とするシステム構成とし、Webシステムにより最新のブラウザからの利用を基本としたシステムであること。

- (2) 事務系システムソフトウェアは、本学事務局の既設端末において稼働させることとし、Microsoft Windows11 (64bit版) において動作すること。
- (3) 本学と同規模以上（教職員数約300人及び学生数約1400人）の大学への導入実績を有し、当該導入後、少なくとも3年以上の稼働実績があり、大きなトラブルを起こしていないこと。
- (4) インターネットデータセンターでの運用によるシステムとすること。
- (5) 現在本学で稼働中のポータルシステム「UNIVERSAL PASSPORT RX」（日本システム技術株式会社）とシームレスな連携が可能なシステムであること。

5 調達対象

(1) 導入業務の対象

本システムの構築に必要な設計からハードウェアの調達、ソフトウェアのインストール（本学事務局既設のクライアントパソコンへのインストールを含む。）、各種マスター及びパラメータのセットアップ（現行システムからのデータ移行を含む。）、運用テスト並びにマニュアルの作成等、本番稼働までの全ての工程及び作業を対象とする。開発に必要な機器及びソフトウェアの調達並びに開発場所の確保等については、受注者の負担とする。

(2) 調達物件

- ・本システムの運用に必要なデータセンターにおけるストレージ
- ・アプリケーションソフトウェア（カスタマイズを終了したもの。）
- ・基本ソフトウェア（OS、データベース、サーバー等アプリケーションソフトウェアを稼働するために必要なミドルウェア全てを含む。）
- ・証明書発行機 1台

6 システム構築期間

(1) 導入業務の期間

契約日から令和8年3月31日まで

(2) 調達物件の引渡期限

令和6年12月末まで

ただし、本学が必要と認める場合は、受注者と協議の上、これを変更する場合があります。

7 調達物件に付随する業務

(1) 動作確認

ハードウェアへのソフトウェアのインストール及びセットアップ並びにサーバー及びクライアントパソコンにおける動作確認は、令和7年9月1日までの間に行うものとする。

(2) 既存システムから新規導入システムへのデータ移行に係る調整

新規導入システムを、導入時より正常かつ円滑に稼働させるため、本学及び大学既存ネットワーク導入業者等関係業者との打合せを実施し、導入スケジュールの管理等、必要な調整を行うこと。

(3) 初期データのセットアップ

ア 初期データのセットアップについては、本学職員に過度な負担がかからないようにすること。

イ 移行する初期データは、以下の項目を想定している。

- ・各マスター情報
- ・学生（卒業生含む。）基本情報
- ・入試情報
- ・成績情報
- ・履修情報
- ・健康診断情報
- ・学納金情報
- ・就職先等企業情報

(4) 操作マニュアルの作成

操作マニュアルについては、下記の区分ごとに電子媒体及び紙媒体で3部提供すること。なお、電子媒体については、PDF又はhtml及びWord又はExcelのファイル形式によりDVD-ROMで提供すること。また、各マニュアルには、単にシステムの機能ごとに操作方法を記述するのではなく、業務又は利用の流れと関連付けて理解できるよう、目的、概要、機能説明及び操作手順等について記述すること。

ア システム管理担当職員向け操作マニュアル

システム管理担当職員向けのマニュアルは、障害時の対応方法、マスターをはじめとする各種定義情報の管理方法等のシステム管理担当職員が行うべき作業の定義とその操作方法等について記述すること。また、データベース及びCSV項目の一覧を貼付すること。

イ 職員向け操作マニュアル

(5) 研修

大学のシステム担当職員に対して、システムの管理・運用の研修を複数回行うこと（受講者10人程度）。研修の際に必要な資料は、受託者が作成し、必要

部数を用意すること。研修の時期、回数及び所要時間は、事前に大学と協議すること。

8 ソフトウェア要件

(1) システム基本要件

ア UNICODE (UTF-8) に対応していること。

イ 稼働中のポータルシステムとアクセスするサーバーが別であること。

ウ データ移行の検証を行うため、同一データベースサーバー内に、本番（運用）環境以外に、テスト環境が保持できること。

エ 業務処理の効率化と、ペーパーレス化が図られること。その為、全ての帳票出力に関してはCSV及びPDFによる出力が可能であること。また、一括出力時には、CSVの並び順を自由に変更でき、かつ、パターン化できること。

オ データ入力は、画面からの直接入力その他、テキスト形式(CSV形式等)で作成したデータによる一括入力が可能なシステムであること。

カ 学部・学科増設、改組について柔軟に対応できること。

キ 職員（管理者、担当係及び一般職員）などのユーザグループごとに操作権限及び学生情報の参照権限を分けられること。

ク 学校印鑑画像は10ファイル以上管理できること。

ケ ブラウザベースのシステムとし、全ての操作において、Edge、Mozilla FireFox（最新版）、Chrome（最新版）での動作確認がされていること。

コ 全ての機能にログインID、ユーザ名、機能名称、機能IDが表示されること。本番環境以外にログインしていることが一見して分かるよう環境名や画面色を変更させること。

サ 学校基本調査用帳票7から11号を出力できる機能を有すること。

シ データベースに対し、Microsoft Access等、データベース管理システムから参照権限によるデータ利用ができ、ユーザへのテーブル情報の提供が可能であること。その際、テーブルには別名を付し、日本語による参照ができること。

(2) 学籍管理機能

ア 学籍マスターテーブル管理機能

学籍管理に必要な項目の管理が可能であること。また、これらの情報について、部分一致などによる柔軟な検索及び参照が可能であること。

イ 学生異動処理機能

以下の異動処理を、離学後も保持できること。また、異動区分は本学で設定、変更及び削除が可能であること。

(ア) 卒業、修了、退学、除籍、転出学、聴講修了、専攻修了

(イ) 休学、留年、留学、転学科、進級

ウ 各種名簿等作成機能

学生名簿、異動者一覧、学生宛名ラベル及び履修者名簿の作成(CSVファイルを含む)及び印刷が可能であること。

エ 学籍情報変更履歴を出力でき、過去の値も確認できること。

オ 学籍情報は基本情報、異動情報、担当教員(種別ごとにクラス担当、ゼミ担当、卒論担当)、顔写真ファイルを一括登録できること。

(3) カリキュラム編成・授業管理機能

ア カリキュラム上の基本科目情報及び授業開設上の開講科目情報は、独立して保持し関連させるための構造を持つこと。

イ 基本科目情報は、科目コード、科目名(漢字、カナ、英名)、単位数、授業種別(講義・演習・実験・実習)、配当年次、科目ナンバリングの基本情報と、卒業判定・資格判定に必要な科目分類コード、課程年度を分離して保持し関連させるための構造を持つこと。また、基本科目情報及び開講科目情報は、CSV指定による一括登録が可能であること。

ウ 開講科目情報は、開講科目コード、開設年度、学期、授業区分(毎週、集中)、曜日、時限、講義場所、担当教員を独立して保持し関連させるための構造を持つこと。また、一科目に対し、複数の担当教員及び講義場所の設定が可能であること。

エ 科目振替について設定ができ、1対N、N対1の複数振替が可能であること。

オ 開講科目情報の重複チェックにおいては、時限レベルでのチェックが可能であること。

カ 科目一覧、授業情報一覧、教員別授業情報一覧、履修条件一覧の作成(CSVファイルを含む)及び印刷が可能であること。

キ 科目配当において、成績評価平均(GPA)計算時の対象又は非対象の選択が可能であること。

ク 年度をまたぐ通年科目の設定が可能であること。

ケ 授業ごとに担当する教員ごとのコマ数を小数点第2位((例)A教員0.5コマ、B教員0.25コマ、C教員0.25コマ)まで管理することができ、それを基に、当該学期における教員ごとの授業担当コマ数を出力可能であること。

コ ポータルシステムから登録された、休講情報を基幹システムに同期することができ、教員ごと、授業科目ごと、指定日・時限ごとの休講及び補講情報のCSVで出力が可能であること。

サ 試験の時間割管理が可能であり、試験時間割のデータの一括出力が出来ること。また、定期試験又は追再試験が通常の授業実施曜日と異なる場合、作成し

た試験時間割において、履修者全員が受験可能な時間割となっているかをチェックし、重複する履修者がある場合は、エラー情報としてCSVで出力することが可能であること。

シ 試験の座席表や席札を作成する元データとして、試験受験者情報をCSVで出力可能であること。

(4) シラバス機能との連携

ア ポータルシステムで稼働するシラバス公開・管理機能と、基幹システムが管理する授業科目情報を同期し、管理することが可能であること。

(5) 履修管理機能

ア 学生自身がポータルシステムから登録した履修登録情報を基幹システムと相互に連携し、管理することが可能であること。

(6) 成績管理機能

ア 成績一括登録機能、授業別成績入力機能、GPA計算機能（通算、年度ごと、年度学期ごと）を有すること。

イ 評価基準は、本学で設定が可能であること。

ウ 成績原簿、成績通知書、教員別成績評価一覧、学生別GPA一覧の作成（CSVファイルを含む。）及び印刷が可能であること。

エ 教員自らが操作することにより、成績入力及び成績照会が可能であること。

オ 成績の入力については、点数又は評価コードによる入力が可能であること。

また、授業ごとにCSV指定による採点データの一括登録が可能であること。

カ 成績入力画面において、学生の異動状態(休学)が自動的に表示されること。

キ 成績を入力する際、採点入力した学生の成績分布を授業ごとに参照でき、入力後の確定を教員が行うことができること。複数教員で担当している場合は、他教員の評価も参考にできること。

ク 成績未入力科目一覧の出力ができること。

ケ 成績入力期間が終了しても、採点結果の参照が可能であること。

コ 追・再試験の採点入力が可能であること。

サ 成績入力途中の一時保存が可能であること。

シ 出欠情報の登録管理が可能であること。

ス 出学者に対しても採点が行えること。

セ GPA 順位が学科単位で出力可能であること。

ソ 複数の単位認定を行う際に、複数科目を一括で登録できること。

タ 教員・授業科目ごとの成績評価割合（成績分布）を一覧で一括出力することが可能であること。

(7) 卒業・資格判定機能

ア 卒業判定、資格判定及び進級判定機能のほか、各判定について見込判定ができ、卒業者名簿その他の判定結果資料の作成（CSVファイルを含む）及び印刷ができること。また、これらの設定条件一覧資料の作成（CSVファイルを含む。）及び印刷ができること。

イ 上記設定条件は、課程年度ごとに本学で設定及び設定変更が可能であること。

(8) 証明書発行機能

ア 和文のほか英文による証明書発行が可能であること。

イ 証明書の文面については自由に設定できること。

ウ 日付については、西暦・和暦が選択できること。

エ 学校印を印字した各種証明書が出力可能であること。

オ 自動証明書発行機の設置に対応可能なこと。

カ 現在 EUC 対応している、単位取得証明書、建築士修得単位証明書（学士）、建築士実務経験修得単位証明書が発行可能であること。

(9) 教職員情報管理機能

ア 教職員情報（教員コード、氏名、役職、所属情報）を登録及び管理ができること。また、教職員情報は、CSV指定による一括登録が可能であること。

イ 教職員情報の照会・検索機能を有すること。

(10) 問合せ者情報管理

ア 問い合わせ者情報管理に必要な項目の管理が可能であること。また、これらの情報について、部分一致などによる柔軟な検索及び参照が可能であること。

イ 問合せ者向け、問い合わせ者所属高校向けの宛名ラベル、統計表を作成（CSVファイルを含む）及び印刷が可能であること。

ウ 問合せ者情報は個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

エ 問合せ者情報一覧の作成（CSVファイルを含む）及び印刷が可能であること。

オ 問合せ者と志願者の突合せを行い、同一人物の可能性のある問合せ者の一覧を作成（CSVファイルも含む）及び印刷が可能であること。

カ 問合せ者情報から、問合せ者統計表の作成（CSVファイルも含む）、過年度の問合せ者統計表の出力も可能であること。

キ 募集費用を管理することが可能であること。

(11) 志願者受付管理

ア 入試要項管理機能

入試要項の管理に必要な項目の管理が可能であること。

イ 教科、科目や得点の情報の登録・更新・削除を行うことが可能であること。

また、入試要項の情報は、入試年度、入試種別、学科組織、登録可能な区分ごとに登録を行うことが可能であること。

ウ 志願者管理機能

志願者管理に必要な項目の管理が可能であること。また、これらの情報について、部分一致などによる柔軟な検索及び参照が可能であること。

エ 志願者情報は、個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

オ 同一入試区分において、同一人物の可能性のある志願者一覧の作成（CSVファイルも含む）及び印刷が可能であること。

カ 受験者管理機能

キ 志願者情報を引き継ぎ、大学入試センター試験の情報を付加し、受験者管理に必要な項目の管理が可能であること。

ク 願書受理処理後、志願者情報に受験番号の自動付番が可能であること。

ケ 志願者の情報と問合せ者の情報を突合わせ、同一人物の場合は問合せデータを志願者情報へ転記することが可能であること。

コ 志願者及び受験者数の日計表を出力することが可能であること。また、入試種別、学科組織を指定可能であること。

サ 大学入試センター試験の情報と入試要項管理機能により、大学入試センター試験の受験を要する教科・科目を受験していることをチェックし、一覧表を作成（CSVファイルも含む）することが可能であること。

シ 入試教室、試験時間割、試験教室割当、志願者試験教室割当を管理することが可能であること。

ス 受験時に必要な情報の一覧を作成（CSVファイルも含む）及び合格者・入学手続者宛名ラベルや受験番号札の印刷が可能であること。

セ 推薦高校向け通知書、推薦決定・停止の各種通知書、推薦依頼書の発行が可能であること。また、各通知書等の文面については自由に設定できる機能を有すること。

ソ 併願者一覧を作成（CSVファイルも含む）することが可能なこと。

(12) 入試成績管理

ア 入試採点情報（得点及び評価）、欠席者、志願者調整点は個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

イ 成績集計は得点（換算点）をもとに偏差値計算（大学入試センター試験データは、全国平均点及び標準偏差を使用）を行うことが可能であること。また、換算計算した得点と偏差値を、志願者受験段階で集計することが可能であること。

ウ 入試採点情報、科目別標準偏差（受験教科の科目別に、加算配点、標準偏差値、最低得点、最高得点、平均点を表示）の一覧作成（CSVファイルも含む）及び印刷が可能であること。

エ 受験者情報、高校情報、調査書情報、募集管理情報、大学入試センター試験情報、入試成績情報、入学歩留の一覧表をエクセルファイルで作成が可能であること。

(13) 合否判定機能

ア 合否データに関しては、個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

イ 合否判定資料を出力することが可能であること。

ウ 合否判定資料、合格通知書、出身校向け合否通知書の一覧を作成(CSVファイルも含む)及び印刷が可能であること。

エ 受験者向けの合格通知書及び受験者の出身校向けの合否通知書(合格通知書、不合格通知書)の発行が可能であること。また、各通知書の文面については自由に設定できる機能を有すること。

オ 追加合格区分や追加合格回数の登録をすることが可能なこと。

カ 成績集計結果を基に志望者の第1希望学科曾域についての合格ラインを判定することができる。

キ 複数の入試種類をグループ設定することができ、併願した情報(席次、集計点、合否)を確認できること。合格判定時には併願情報を加味して、複数合格の可否を画面で選択できること。

(14) 入学手続管理機能

ア 入学手続者、入学辞退者に関しては、個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

イ 入学許可書の文面については自由に設定できる機能を有すること。

ウ 入学手続日計表は、入試区分、志望学科等を指定して、入学手続を行った志願者の日計表(累計も含む)を出力することが可能であること。

エ 入学手続者の一覧、入学許可書を作成(CSVファイルも含む)及び印刷が可能であること。

(15) 大学入学共通テスト管理機能

ア 大学入試センター提出用の帳票及びデータの出力が可能であること。

イ 大学入試センターから提供されたデータをチェックしながら、一括して各種台帳に登録することが可能であること。

ウ 大学入試センターから提供された高校コード等を一括で取り込むことができ、高校等名が自動作成され、出力に利用できること。高校等マスターは適宜フィールドが追加できること。

エ 大学入試センターから提供されたTXTファイルを取り込むことができ、CSVファイルとして出力できること。

オ 大学入試センターの制度改正があった場合に標準機能として無償対応版を提供すること。

(16) 入試締め処理

ア 合格者データを在学生として学籍情報に引き継ぎ、一元管理が可能であること。

イ 入学手続きをしていない合格者については、学籍情報に引き継がないといった指定が可能であること。

(17) 入試広報機能

ア 学科、募集区分別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数（男女別、現役・浪人別を含む）の推移を出力することが可能であること。

イ 統計用データ（問い合わせ者情報、志願者情報、成績情報、合否情報、手続情報）の出力が可能であること。

(18) 学費学生情報管理

ア 学生情報の照会ができること。

イ 異動情報(休学・留学)・所属学科・学年などを組み合わせることで学生にあわせた納付金を登録できること。

ウ 学生納付金の登録方法については、条件による一括割当、学生ごと及びCSV指定による一括登録が可能であること。

エ 学生ごとに納付金の費目(内訳)の要徴収金額を変更できること。

オ 学生ごとに納付金の免除額を設定できること。また、学生の免除情報の一覧が出力できること。

カ 学生ごとに納付金の延納情報を登録できること。また、延納情報の一覧出力が可能であること。

キ 学生の納付金延納情報は履歴管理できること。

ク 送付状の送付先について、一括及び随時で登録可能であること。

ケ 滞納している学生に対して督促状を出力できること。

コ 保護者の連名出力を含めた学生向け宛名ラベル作成及び印刷が可能であること。

(19) 納付金管理

ア 納付金情報を年度コピーできること。

イ 納付金の分納は任意の回数で対応できること。

ウ 納付金の入金口座を複数設定できること。

エ 学生へ送付する為の各種送付状・納付書・督促状を出力することができ、その文面を変更できること。

オ 自動引落用として銀行へ送付するテキストデータの出力が可能であること。

また、レイアウトは全国銀行協会が定めるフォーマット（以下「全銀協フォーマット」という。）に準拠していること。

カ 未来年度の納付金情報を作成できること。

(20) 収納管理

ア 学費・入学金の入金一括登録を行う前に、入力対象データのチェックを行い、正常なデータとエラーデータを分ける機能を有すること。

イ 入金登録用全銀協フォーマットファイルのエラーデータを修正する機能を有していること。

ウ 納付金の入金情報についてCSV形式からの一括登録及び画面上から随時登録できること。

エ 学生ごとに納付金の収納履歴を照会できること。

オ 学生の入金履歴一覧は入金日付の範囲指定が可能であり、画面の指定で学生別・納付金別に出力できること。

カ 納入期限を指定して学生の滞納者一覧を出力できること。

キ 銀行口座・納付金ごとに学生の入金情報一覧を出力できること。

ク 学生の収納履歴一覧、収納状況一覧、超過金一覧、未納者一覧、完納者一覧を出力できること。

ケ 学生ごとに納付金の返金を登録できること。また、返金情報の一覧出力が可能であること。

(21) 志願者収納管理

ア 志願者(合格者等)ごと又は条件指定による納付金の一括割当ができること。また、志願者(合格者等)の割当情報一覧が出力できること。

イ 志願者(合格者等)ごとに納付金の免除額が設定できること。志願者の免除情報一覧が出力できること。

ウ 志願者(合格者等)へ送付する納付書を発行できること。

エ 志願者(合格者等)の入金一括登録機能を有していること。また、画面上から随時登録できること。

オ 志願者(合格者等)の入金履歴一覧を出力できること。

カ 銀行口座・納付金ごとに志願者の入金情報を一覧出力できること。

キ 志願者(合格者等)の収納履歴一覧、収納状況一覧、未納者一覧、完納者一覧を出力できること。

ク 志願者ごとに納付金の返金を登録できること。また、返金情報の一覧出力が可能であること。

(22) 納付金財務情報

ア 銀行口座ごとに日別の入金金額を一覧出力できること。

イ 納付金・費目ごとに日別の入金金額を一覧出力できること。

ウ 納付金の仕訳明細データをCSV形式のデータ又はTXTファイルで出力できること。

(23) 同窓会会員管理

ア 会員番号の自動付番が可能であること。

イ 会員情報を参照できること。

ウ 同窓会会員管理に必要な項目の管理が可能であること。また、これらの情報について、部分一致などによる柔軟な検索及び参照が可能であること。

エ 会員情報をCSV形式からの一括登録及び画面上から随時登録できること。

オ 会員の宛名ラベルを出力できること。

(24) 同窓会グループ管理

ア 独自に同窓会グループを作成し、会員情報を管理できること。

イ 同窓会グループごとに会員名簿を出力できること。

ウ 同窓会グループごとの宛名ラベルが出力できること。

(25) 就職学籍情報管理機能

ア 以下に例示する就職学籍情報の管理が可能であること。

求人対象年度、卒業予定年月、就職先、非就職区分、非就職詳細内容、就職管理対象、卒業・留年対象、学籍メモ、資格・面談情報(年度、テーマコード、テーマ、日付、枝番、面談者、面談内容)、進路希望、就職活動情報(求人年度、企業コード、求人票受付番号、求人職種、応募区分、求職状況区分、決定職種、応募登録日付、内定受諾日付、就職先登録日付)、推薦情報(求人年度、企業コード、求人票受付番号、求人職種、応募区分、求職状況区分、非学校推薦、推薦書発行日)、インターンシップ情報(実施年度、企業コード、実施枝番、登録区分、状態区分、希望登録日、体験職種コード、参加時学年、参加時学期)など

イ 就職学籍情報機能から基幹システムで登録した、学籍基本情報、住所・帰省先情報、保証人情報、入学・出身校情報、クラス・教員情報、在学成績情報を参照することが可能であること。

ウ 就職学籍情報に関しては、個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

(26) 企業・求人情報管理機能

ア 求人に関する情報の管理が可能であること。

イ 企業情報、企業照会結果、企業説明会情報、企業訪問情報の一覧を作成(CSVファイルも含む)及び印刷が可能であること。

ウ 企業の合併情報を管理することができ、存続会社以外の企業については、廃業というデータを保持することが可能であること。

エ 求人情報に関しては、個別登録とCSV指定による一括登録が可能であること。

(27) 証明書発行機

ア 証明書発行データが基幹システムとリアルタイム連携していること。

イ 証明書発行機で出力される証明書のレイアウトは、基幹システムの文面設定機能で修正できること。

ウ 証明書ごとに指定期間内における発行上限枚数が設定できること。

エ 証明書を目的ごとにグルーピングできること。

オ 基幹システムで証明書発行機の設定ができること。

カ 基幹システムで証明書発行機のエラーや警告（機器エラーのほか、消耗品残量の警告を含む）を確認できること。

キ 証明書の発行実績を、画面上で確認できること。また、一覧や集計表を出力できること。

ク カードリーダーはICカード（Felica FCFフォーマット）に対応していること。

ケ カードによる認証のほか、学籍番号とパスワードなどによる運用ができること。

(28) 学生健康診断結果書

ア 健康診断情報管理機能

以下の情報の管理が可能であること。

学籍番号、氏名、性別、所属、身長、体重、BMI、視力（裸眼左右、矯正左右、
血圧（最高、最低）、尿検査（蛋白、糖、潜血）、血液検査（HDLコレステロール、
中性脂肪、LDLコレステロール）、レントゲンNo、間接判定、判定結果（総合判定）

イ 健康診断結果データの個別入力及びCSV指定による一括登録が可能であること。

ウ 健康診断結果については、学生自身が学生ポータルにより閲覧できること。

エ 健康診断の判定区分を単位として、学生に対しメッセージ送信あるいは呼び出し通知等が可能なこと。

オ 健康診断結果書の発行が出来ること。なお、判定区分に応じ、発行の可否について制御可能であること。

(29) 障害学生支援機能

ア 障害学生の登録や検索ができること。

イ 障害学生情報管理機能

診断の有無、手帳取得の有無、障害種別（以下重複可）（視覚、聴覚、言語、肢体不自由、病弱・虚弱、発達障害、精神障害（統合失調等、気分障害、神経症性障害等）、摂食障害、睡眠障害等、他の精神障害、その他の障害

- ウ 障害種別は随時追加、変更、削除できること。
- エ 必要な支援内容の記録ができること。
- オ 利用の権限設定ができること。

9 性能・機能以外の要求要件

(1) 障害対応・保守体制・運用支援・教育体制

ア ハードウェアの障害対応及び保守体制

納入したすべての機器については、納入後5年間保守を行うこと。

イ ソフトウェアの保守体制

納入システムに関する質問、問い合わせについては、日曜、祝祭日、年末年始を除き、1両日中にE-mail、FAX、電話等により対応すること。

【参考】前橋工科大学の概要

- (1) 公立大学法人設立日：平成25年4月1日
- (2) 所在地：群馬県前橋市
- (3) 学生数 1,396人（令和6年5月1日現在）

・工学部

(学科)

社会環境工学科	67人
建築学科	61人
生命情報学科	61人
システム生体工学科	54人
生物工学科	53人
総合デザイン工学科	42人

(学群)

建築・都市・環境工学群	443人	
情報・生命工学群	453人	合計1,234人

・大学院博士前期課程

建設工学専攻	23人	
建築専攻	30人	
生命情報学専攻	22人	
システム生体工学専攻	48人	
生物工学専攻	26人	合計 149人

・大学院博士後期課程

環境・生命工学専攻 13人 合計 13人

(4) 教職員数 249人（令和6年5月1日現在）

・専任教員 69人

・非常勤教員 132人

・事務局職員 48人（非常勤職員を含む。）